

演題 3. 尿流動態検査における初発尿意量、最大膀胱容量の cut off 値設定の試み

○山口千晴¹⁾ 榊原隆次²⁾ 内山智之³⁾ 真々田賢司¹⁾
澤部祐司¹⁾ 野村文夫¹⁾ (1:千葉大学医学部附属病院 検査部 2:東邦大学医療センター佐倉病院内科学講座神経内科学 3:千葉大学医学部神経内科)

【背景】近年、生活の質 (QOL) の観点から下部尿路障害が注目されている。過活動膀胱 (OAB) は尿意切迫感を主体とする症状症候群であり、高齢者・神経疾患患者に高頻度にみられる。OAB と下部尿路障害の客観的検査である尿流動態検査所見との関連は、十分に明らかにされていない。

【目的】尿意切迫感の有無によって初発尿意量 (First sensation:FS) と最大膀胱容量 (Bladder capacity:BC) の cut off 値を検討した。

【対象と方法】対象:1998年から2000年の間に当施設で尿流動態検査を施行した901例(男性541名、女性360名 平均年齢60.5±14.0歳)。

方法:1)当施設での正常者/神経因性膀胱患者を指標とした現行FS(100-300ml)・BC(300-600ml)cut off 値と、尿意切迫感について検討を行った。2)尿意切迫感を指標としたFS、BCの新規cut off 値設定を試みた。

【結果】1)正常者/神経因性膀胱患者を指標とした現行cut off 値と尿意切迫感について、尿意切迫感があるもののうちFS<100mlは24.1%、BC<300mlは39.4%と割合が低かった。2)尿意切迫感を指標とした新規cut off 値設定の試みでは、FSについてはcut off 値の設定は出来なかった。またBCは、cut off 値400mlで感度68.9%、特異度67.5%が得られた。

【考察および結論】尿意切迫感を指標とした場合、FSについてはcut off 値設定出来ず、BCについては400ml未満のcut off 値が得られた。BC400mlは、これまで知られている排尿筋過活動と共に、OABの尿流動体検査上の比較的恒常的な特徴と思われた。(連絡先:043-226-2330)